



東日本大震災での 被災校体験から

宮城大学 看護学群
吉田 俊子

宮城県の被災状況

平成23年3月14日

避難者32万人（県全体人口234万人）、
避難所1200か所以上

平成23年7月19日

避難者数 12140人、避難所数 283か所

平成24年4月末

震災関連死 636名（全1618名） 全壊 84633棟

平成31年3月現在

死者＋行方不明者 11786名（全19689名）

震災関連死928名（全3701名）

宮城大学

- 仙台市、大和町の2か所にキャンパス
 - 大和キャンパス 看護学部、事業構想学部
 - 太白キャンパス 食産業学部
 - 全学学生総数 1908名 (2011,3月11日時点)
 - 教職員 245名 + 非常勤134名
 - 看護学部学生定員数
 - 一学年 90名、編入10名
 - 大学院修士10名、博士3名
- 平成23年3月11日 時点
- 看護学部・研究科学生総数 411名

3月11日 看護学部内の様子

13:00

- ・後期試験のため教職員以外は入館禁止

14:46

- ・震度6弱 繰り返す強い長い揺れ、停電、携帯、ネットつながらずラジオのみ、学部長、実習委員長を中心として名簿確認

15:00

- ・宮城大学危機対策本部設置
- ・学生支援班に安否確認のために看護学部・看護学研究科の学生名簿依頼
- ・看護学部内に対策室を設置

17:00以降

- ・入学者選抜試験(後期日程)の延期を決定
- ・12日(土)、13日(日)の対応教員を決定
- ・学内の対応者:役員、事務部、教員 計23名
- ・避難学生の受け入れ38名、10時PM以降は自家発電も停止

道路も段差で寸断、ラジオから大津波警報、川の逆流
行方不明者、死者多数、1000人以上? 情報詳細がまったく不明



危機対策本部 検討事項 3月11日～

- ①在学生の安否確認
- ②入学試験の対応
- ③卒業式の対応
- ④入学式の対応
- ⑤教職員(家族を含む)の安否確認
- ⑥被害状況調査
- ⑦関係機関への報告(県、文科省)
- ⑧学外行事への対応(年度末、年度始まりの行事)
- ⑨給料(3月18日)、旅費・業者(3月25日)支払い可否検討
- ⑩入学手続きの対応(前期)→入学の意思確認と入学金納入の延期
- ⑪応援要請への対応、被災地への応援の派遣
- ⑫学生等の精神面等の相談、被災学生への精神的ケア
- ⑬ライフライン等の情報収集
- ⑭罹災学生に対する経済的支援内容の検討 生活費・授業料等





安否確認どうしたか

いままで実習に備え、災害伝言版を使用した訓練を実施していた

→しかし、災害伝言版は全く使えない

- 実習中に各領域で使用した教員・学生連絡網があり
教員が実習携帯をもっていた

→ 14日まで実習携帯使用できなかった

→ 大学のサーバーダウン（23日まで何も残っていない）

→ 教員1名の学外サーバーPCが13日使用可

→ 大学にきた学生に声かけ、PCで災害伝言版をみる

実習連絡網、個人携帯を駆使してつながるところに連絡

看護実習中における災害対応マニュアル

適用：震度5以上の地震、豪雨、台風、大雪など、実習に支障が出ると考えられる場合

目的：大学の災害対応方針を実習指導教員に迅速に連絡する（看護実習時の災害対応チーム：NDT）。

大学からの指示を受け、安否報告および指示返答を行う（実習指導教員）。

学部長	実習委員長 & 実習委員会メンバー 【看護実習時の災害対応チーム：NDT】		看護教員		学生
			学内 (実習 & その他)	学外(実習)	★実習中の学生 ☆学内の学生
	伝言板は使用しない		伝言板を使用する		使用する
震度6で 大学災害 対策本部へ	発生	●実習委員長が、NDTのリーダー（総指揮）となる (委員長不在時は委員が代行) ●実習委員会メンバーは受付に即集合 ●実習委員会点呼係は、学内教員の点呼 (3階受付掲示中の“看護学部教員一覧”を用いる)	●3階受付前に即集合し、 点呼に応じる	●学生の安否確認 ●師長など実習施設側に報告 ●NDTの指示が来るまでの間、実習施設等の 情報収集にあたりながら、学生の行動を指 ・受持ち患者への対応 ・その後の行動の判断 院内に待機 更衣室に待機など	★☆(事前)実習 毎に実習担当教 員のアドレスを登録 ★担当教員の 指示に従って行動 ★必要時、受持ち 患者の確認にあ たるが、教員の指示 をおく
		●実習中止か継続かを協議 (NDTリーダー & メンバー + 学部長) インターネット・ラジオ・ワンセグ等で状況確認し、 ①実習中止か実習継続かの判断を下す 実習中止 実習継続 ②発信方法を定める(電話OK→緊急連絡網で) (電話・メール→災害伝言板で)	●学内演習の 際には、学生☆ の確認後集合		
	判断	(電話使用可の際は緊急連絡網で連絡する) ●電話・メールが使用できない場合、災害伝言板で 実習委員会の伝言板係が以下いずれかを発信 実習中止 実習継続		●災害伝言板からの連絡を待つ →実習中止/実習継続の確認後、 災害伝言板に登録→送信 【記載約束】：無事の場合 □無事です、にチェック コメント欄に以下のいずれかを必ず明記し教員名を入れる 中止了解 教員名 継続了解 教員名 継続不可 教員名	合言葉のように、全員が同じ キーワードを使用すること。例 =実習継続の知らせが来ても、 現場の状況によっては実習がで きない場合
発信	実習委員会 NDT(災害対応チーム)メンバーの役割 リーダー：(委員長)総指揮 災害担当：補佐/点呼 伝言板係：伝言の発信・受信 情報・連絡係：災害情報の収集 および事務局等との連絡		【記載約束】：被害がある場合 □被害があります、にチェック コメン 2名負傷 等記載する ト欄 他に「1名欠席」など、なるべく数語で コメントすること ●NDTの指示と実習施設側の状況を踏ま え、学生の行動を指示する ・実習中止、帰宅or待機 ・実習継続 など	★教員の指示の元に 安全に行動する	
		●学外教員の確認(災害伝言板の確認)	●通達途中の報告に発生した場合	★メール不能時	

安否確認経過

- 3月13日 学部研究科合わせ107名無事確認
- 3月14日 安否未確認教員1名、学生341名（82%）
教員は家族を含めて安否確認
（危機対策会議決定）
- 3月16日 教職員全員の安否確認
- 3月17日 事務部総務グループより学生1名
（看護学部1年）の死亡が複数の情報より確認
- 3月18日 未確認学生2名（石巻市）
学部長・研究科長よりメール送信
- 3月28日 学部生、院生全員の安否確認

死亡学生への対応

- 学長、学部長、前学部長、学務課長にて弔問
(4月11日)
- 学生証、大学の演習風景、レポート、実習ノート(3月7日に基礎実習 I 段階終了)、教員が持っていたレポート、写真で教員手作りのアルバムを作成
- 実習服などのロッカーの荷物とともにご家族の家に伺う
- 除籍手続

- 平成25年同級生卒業時に、学生から一緒に卒業したいとの要望 特別卒業証書贈呈
- 学生の主催で卒業証書授与式後にメモリアルの機会



学務状況

3月12日 後期入試 大学での試験は中止

3月19日 卒業式は中止（後に1年遅れで実施）

入学式中止（後に9月に実施）

5月2日：入学生オリエンテーション

5月6日：在校生オリエンテーション

5月9日：講義開始（文部科学省より通達 13回）

総合実習（4年5月末実施、地域医療施設との調整）

新カリキュラムの申請（4月に検討再開）

7月実習施設調整未で完成、9月上旬に県に申請



学生支援

- 電話聞き取りによる被災状況確認(看護学部)
オリエンテーション時の全学被災状況確認
- 授業料納入期限の延長
- 学生相談室、相談員、教員による精神面のケア
- 学習奨励基金等、学生の被災状況に基づく
経済支援の検討→ 授業料免除(震災枠)設定
- 震災復興寄付金の受け入れ



大学全体での調査

- 授業開始前オリエンテーション時に全学調査実施
- 東京都保健福祉局作成 災害時の「心のケア」の手引きから、質問項目は東京都保健福祉局作成の“災害時の「心のケア」の手引き”から、被災者健康相談票の精神面の自覚症状を抜粋。
- ただし、災害を過度に意識させ心理的に負荷とならないよう、7, 8の項目については学生支援担当者間で検討のうえ削除し、残りの8項目を用いた。

東日本大震災による被災状況調査票

(その後の余震による被災も含む。)

宮城大学

・震災に伴う被災状況について該当する番号を○で囲み、必要事項をご記入願います。

学籍番号		氏名	
------	--	----	--

学科・研究科

1 看護学科	2 事業計画学科	3 デザイン情報学科	4 ファームビジネス学科	5 フードビジネス学科
6 環境システム学科	7 看護学研究科	8 事業構想学研究科	9 食産業学研究科	

I 被災の有無

1 あり	2 なし
------	------

なしの場合はIV以下へ

II 被災状況(本人若しくは実家の状況)

1 本人	けが(程度を記載ください。)	
------	----------------	--

2 家族	続柄(父母・兄弟姉妹・祖父母等)	
	被災の状況(死亡・けが等)	

3 親戚 友人等	続柄(おじ・おば・友人等)	
	被災の状況(死亡・けが等)	

家屋(学生自身が住んでいる家屋)

1 全壊	2 半壊	3 一部損壊
------	------	--------

家屋(家族と同居していない場合:実家)

1 全壊	2 半壊	3 一部損壊
------	------	--------

※ 全壊には流失、全焼も含む。半壊には半焼も含む。

世帯の収入の減少(今回の震災により家計支持者が職を失った等による収入の減少)

1 家計支持者が職等を失い著しい減少となる見込み	2 減少の見込み	3 なし
--------------------------	----------	------

III 震災後の住居について

本人	1 変更あり(転居・仮移転)	2 変更なし
----	----------------	--------

(ありの場合は変更後の住居について記載ください。)

変更後の住居(※転居の場合は、学生記録・システム等の住所を変更します。)

1 実家	2 借家(新)	3 親戚宅	4 友人宅	5 避難所	6 その他()
------	---------	-------	-------	-------	----------

住 所	
電話番号	

実家	1 変更あり(転居・仮移転)	2 変更なし
----	----------------	--------

(ありの場合は変更後の住居について記載ください。)

変更後の住居(※転居の場合は、学生記録・システム等の住所を変更します。)

1 借家(新)	2 親戚宅	3 友人宅	4 避難所	5 その他()
---------	-------	-------	-------	----------

住 所	
電話番号	

IV 授業開始後の通学見込み

1 通学に支障なし	2 通学に支障あり
-----------	-----------

(ありの場合は、理由を記載ください。)

理 由	
-----	--

V 身体面の自覚症状

以下のような症状はありませんか(ある場合は、番号を○で囲んでください。)

1 気が高ぶって寝つきが悪くなったり、途中で目が覚める
2 食欲が落ちる
3 疲れやすく、体がだるい、集中できない
4 頭痛、動悸、めまい、吐き気、胃痛、下痢
5 ちょっとした物音にビックとする
6 イライラして怒りっぽい
7 涙がとまらない
8 強い不安や心配、怖い気持ちがわく
9 災害の体験に関連した不快な夢をみたり、光景が急によみがえり不快になる

VI ボランティアの経験

今回の震災に際し、何らかのボランティア活動を行ったことがありますか

1 あり	期間		場所	
	内容			
2 なし				

VII その他(現在不安に思っていること等自由に記載ください。)

--

大学での学生対応

- ・教職員は学生支援の重要なリソース

 - ハイリスク学生の把握

- ・学生相談室カウンセラーより、学生オリエンテーション時に、震災に伴う精神的な問題と支援について説明

- ・学生の孤立を防ぐ居場所づくり

- ・ハイリスク学生に対する対応

 - ランチオン・ミーティングの参加、教職員による声かけ、教員の継続的な面談、学生相談室の利用、HPでもよびかけ

自分で頑張ってしまう学生(援助の必要性を自覚しない学生)ほど
注意が必要

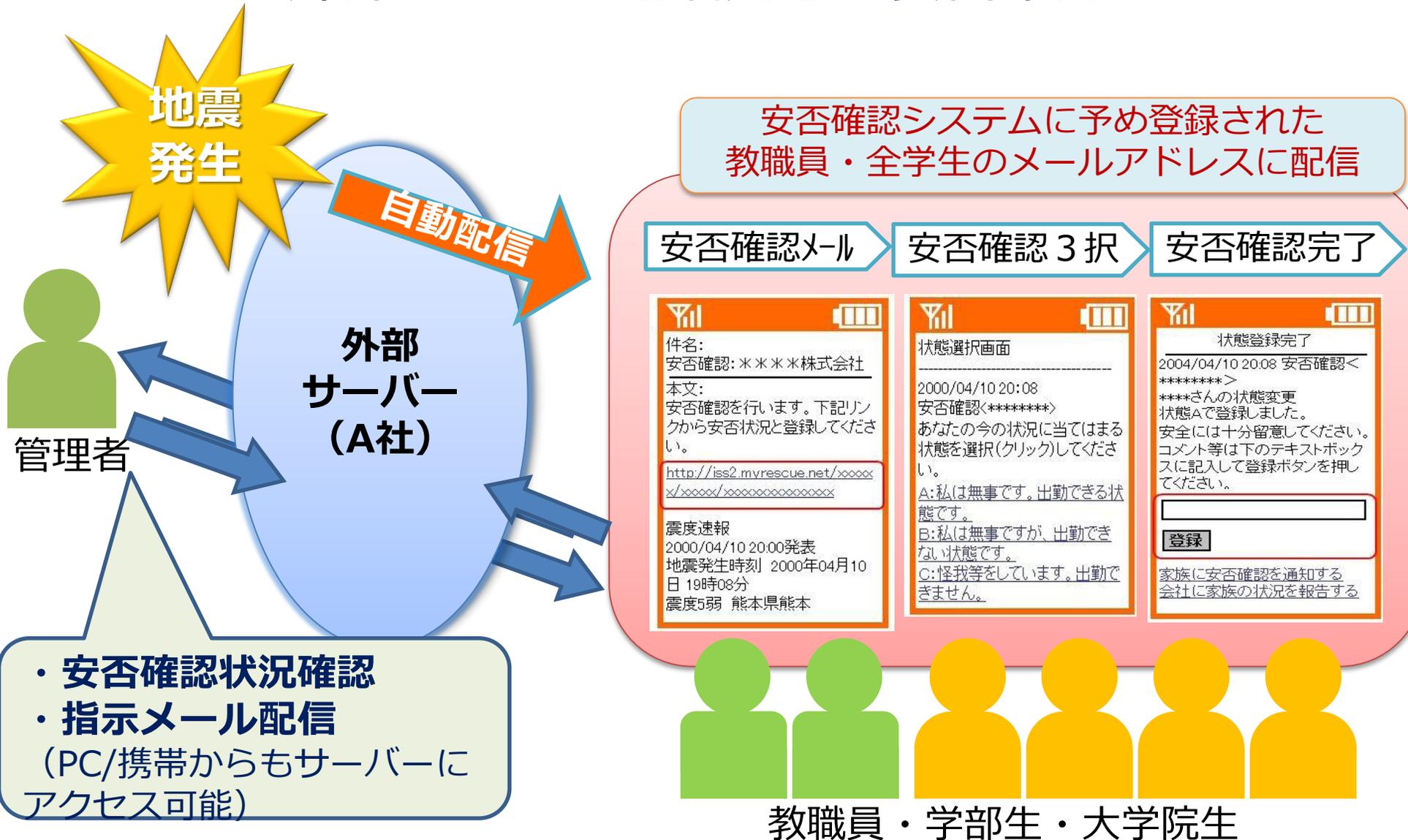
- ・経済面での相談

震災特別枠での授業料免除、奨学金の紹介

教科書や実習服の喪失は、授業開始時に確認

教員や卒業生が持ちよったり、学生保険の活用促す

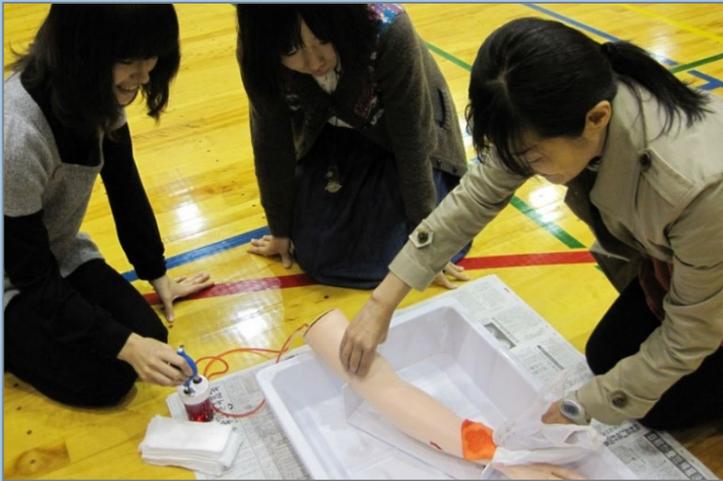
外部サーバーを活用した安否確認システム



災害看護プログラム

since 2010

災害活動論(1年後期)

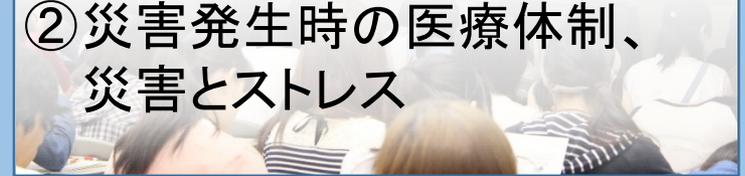


● 各自の目標を立て、災害各期において支援ができる看護の基礎的知識と技術を身につける。

看護マネジメント I (3年前期)

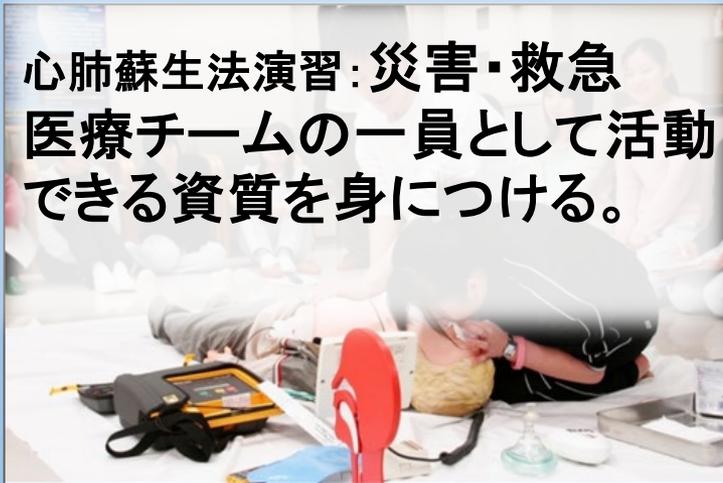
災害時派遣医療チームの看護師による講義：医療現場の災害対策

- ① 救急医療と災害医療の違い、トリアージ
- ② 災害発生時の医療体制、災害とストレス



救急・災害看護論(4年前期)

心肺蘇生法演習：災害・救急医療チームの一員として活動できる資質を身につける。



災害看護支援論(4年後期)



災害公営住宅での健康相談・健康教育等



宮城大学の被災地支援

- 被災地へ県を通じて教職員派遣（気仙沼市・多賀城市）
- 地域連携センターに復興支援事務局設置
- 教員各自でのボランティア支援と情報集約
- 医薬品など協力企業の受け入れ、連携した支援活動
- 災害ボランティアセンターへの学生支援
- 仮設住宅訪問、傾聴ボランティア、
医療施設等の継続支援、心のケア活動（学生とともに）
- 巡回相談のデータ整理、検診支援
- 地域連携協定自治体の復興計画策定への支援
復興計画策定への支援、町民会議サポート

学生と教職員協働での ボランティア活動

震災時のボランティア活動



スマイル農園



震災後からボランティア
活動を継続 学生サークルへ



スマイル健康塾



学生、教職員も被災者

- 無理にボランティアをすすめない、行く人だけが尊いわけではない
- ボランティアしていない、できないことの罪悪感
- 熱心にしすぎることも注意
- 災害・大震災の話はもう聞きたくない、という学生もいる

→学業・本業に専念できる上でのボランティア

- 気持ちを話す、話し合いの場の重要性
- 声をかける、心身の状況を確認していく
- 相談室の活用
- 学費支援など含め学業に専念できる支援

学びと課題

- 安否を早急に確認し、安全と安心確保の重要性
- 学生はひとりではない、大学がそばにいて守っていくことをしっかり示す
- 健康リスク状態の早期把握
- 学生・教職員の個性と持てる力を大切に
- 事務・大学組織の日頃のコミュニケーションが大切
- 地域医療施設も一緒に育ててくれていることを実感 **学生は宝**
- 地域を知り、活かし、一緒に歩んでいく